

アドバンス・ケア・プランニングの考え方

～ 望む生き方をするための人生会議 ～

みなさんは、命に関わるような大きな病気や怪我をして、人生の最終段階を迎える「もしものとき」を想像したことはあるでしょうか？

近年、その「もしものとき」に自分が望む医療・ケアを受けられるように、事前に話しあいや計画を立てることが大切と考えられるようになってきました。

その計画のことを、アドバンス・ケア・プランニングといいます。今回の麻の会トピックスでは、その考え方についてご紹介します。



① アドバンス・ケア・プランニングって何？

万が一の時に備えて、自分の大切にしていることや望み、治療やケアをどのように受けたいかについて自分自身で考えたり、信頼する人たちと話し合ったりすることです。

人生最終段階の計画を立てていくことは、自分自身の生き方そのものを考えることにつながります。また、このことは厚生労働省で平成30年11月30日、「人生会議」という愛称に制定されました。



「もしものとき」ってどんなとき？

たとえば… 脳疾患で「食事が口から食べられなくなった」とき
呼吸が弱くなり「呼吸の補助が必要」と判断されたとき
危篤状態になり「心肺停止の可能性」があるとき など…。



② アドバンス・ケア・プランニングが大切に考えられている理由…

- ・自分の大切に考えていることに沿った治療が受けられます。
- ・自分の代わりに判断をする人にとって、心の支えになります。

人生の最終段階になると、約70%以上の方が、これからの治療について自分自身で決めたり、人に伝えたりすることができなくなると言われています。

その際には、自分の家族や友人など、自分の信頼を置く人が人生最終段階の医療について決断を下すこととなります。そのときに治療やケアの計画が事前に共有できていれば、ご自身の考えを大切に、望ましい判断をすることが出来ます。

考え方のポイント

大切なことを考える

いま、「自分が大切にしたいこと」は何か

将来



決めたことを伝える

話し合いの結果を大切な人としっかり共有する！

大切なひとを考える

いざという時に、「自分の代わりになって話し合いをして欲しいひと」は誰か



受たい治療やケアを考える

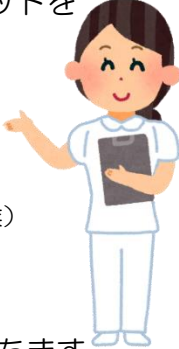
もしものときに、「どんな治療やケア」を受けたいか



～札幌麻生脳神経外科病院でのとくみ～

当院でも、「人生の最終段階における医療およびケアに関するガイドライン」という文書を作成しています。院内ではそのガイドラインに基づき、当院臨床倫理委員会のメンバーがサポートしながら取り組みを行っています。

自分で決めたアドバンス・ケア・プランニングの内容をノート形式で書き留められるパンフレットを当院でも作成しています！



(平成 29 年度厚生労働省委託事業 人生の最終段階における医療体制整備事業)

https://square.umin.ac.jp/endoflife/shimin01/img/date/pdf/EOL_shimin_A4_text_0416.pdf

アドバンス・ケア・プランニングは現在の病気のあるなしに関わらず、重要な決定に役立ちます。自分の望む生き方が見えてくるきっかけになるかもしれません。ぜひ、活用してみてください！この件でご質問やご相談のある方は、当院スタッフまでお声がけ下さい。